

「豊かな人間関係の中で、 生活に充実感を持って暮らせるまち」をめざして

わが国は、生活環境の改善や医学の進歩により、世界有数の長寿国となっています。

しかし、人口の高齢化とともに、生活習慣病やこれに起因する認知症、寝たきり等の要介護状態になる人の増加等が深刻な社会問題となっており、平均寿命の延伸に合わせ、認知症や寝たきりにならずに健康に生活できること、(健康寿命)への関心が高まっています。

生活習慣病の増大、生活様式の変化など、健康を取り巻く社会環境は大変厳しい時代に向かっており、また、健康に対する個人の価値観も多様化しています。このような状況変化の中で、市民一人ひとりが日常生活の中で健康づくりを意識して行動するとともに、健康寿命延伸に向けて市全体の環境整備を進めることが求められています。

健康づくりは人生の目的ではなく、自分らしく生きていくための手段であり、また、単に身体だけでなく、生きがいつくりや仲間・地域づくり、自然とのふれあいなど多様な要素を含んでいると考えます。

このようなことから「健康よつかいどう21プラン」は、心や体の健康づくり、生活習慣病に対する予防対策だけではなく、市民がいきいきと暮らすためのまちづくりの視点を取り入れ、市民が主体的に取り組むための健康なまちづくり計画としました。

市民の皆様にとっての「健康」とは、市民健康意識調査では、「心身とも健やかなこと」「身体が丈夫で元気がよく調子良いこと」を各年代で上位に挙げています。また、「毎日を健やかに充実して暮らしている」と考えている人は8割を超えていました。市では、さらに皆様の健康度向上のため、「豊かな人間関係の中で、生活に充実感を持って暮らせるまち」をめざし、健康よつかいどう21プランの推進に取り組んでまいります。

最後に、本計画の策定にあたり、保健福祉審議会の委員の方々、健康よつかいどう21プラン策定委員会の方々をはじめ、貴重なご意見をお寄せくださいました多くの市民の皆様からお礼を申し上げます。

平成20年3月

四街道市長 高橋 操

